

山本一清博士とあなない天文台

公益財団法人 国際文化交友会
月光天文台 五味政美



カルヴァー前の山本一清台長
(月光天文台) 1957年



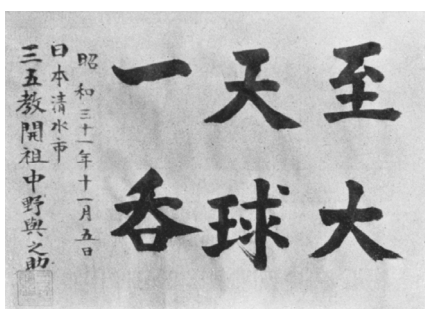
後陽成天皇御自筆の北斗七星の図を指して
1957年1月5日講演(清水市)

1. はじめに

山本一清博士と中野與之助翁との出会い

世界的な天文学の権威者である、山本一清博士が、晩年に何故、神道系宗教に協力して民間に天文普及活動を行ったのか、山本一清博士の心境は如何であったのか。一部には、洗脳されたのではないかと噂まであった程であるが、今となっては山本一清博士の本心を知る由もない。が、山本天文台を訪問した中野與之助翁との出会いを語った言葉から、その顛末の一端が明らかになるのである。

又、山本一清博士の天文に対する深い造詣に、理念の一致を見た中野與之助翁の人物像について次項の年譜略記を示した。



山本博士が驚嘆した揮毫



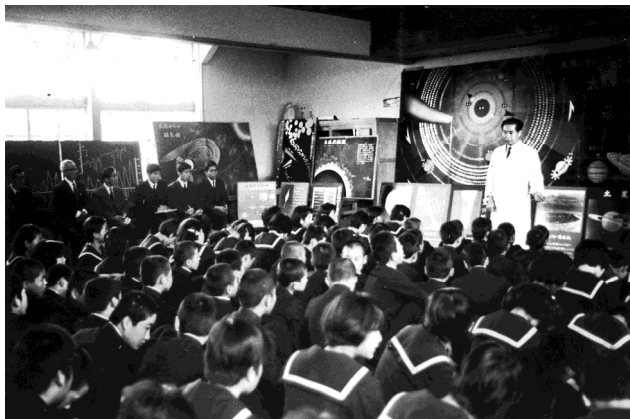
中野與之助翁



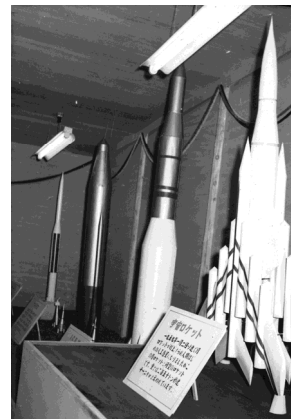
花山天文台にて 左：中野翁、右：山本博士
京大物理学教室「山本資料」より
1956年12月9日

中野與之助翁 年譜略記

1887年（明治20年）		7月23日 静岡県焼津市に生誕。
1894年（明治27年）	7歳	焼津尋常小学校2年中退
1917年（大正6年）	30歳	建設工事請負業を営む。思うところあり後進に譲る。
1918年（大正7年）	31歳	国学者長沢雄楯翁に師事。
1921年（大正10年）	34歳	大本教出口聖師に師事。
1926年（大正15年）	39歳	国学、霊学を研鑽。
1930年（昭和5年）	43歳	国学者水野万年、水谷清に師事し、古事記、日本書紀、言霊学、天津金木学を学ぶ 伊勢神宮の荒木田泰邦男爵に神社祭式、祝詞等について教えを乞う
1940年（昭和15年）	53歳	長沢雄楯翁より霊学の学統を承継する。
1949年（昭和24年）	62歳	静岡県清水市に三五（あなない）教を設立する。
1954年（昭和29年）	67歳	昭和31年にかけて8回の世界宗教会議を開催。
1957年（昭和32年）	70歳	天文暦算局を開設し、中央天文台、西部天文台を設置する。その後8ヶ所計10ヶ所に設置。
1959年（昭和34年）	72歳	4月10日～5月31日宇宙天文博覧会を月光、九州、奥州の各天文台で開催 入場者15万人 3月9日、元山本一清台長の三五教慰霊祭（京大、山本資料より）
1960年（昭和35年）	73歳	三五教を退任
1961年（昭和36年）	74歳	1月28日財団法人国際文化交友会を設立認可、理事長に就任。同法人は平成23年度より公益財団法人となった。
1961年（昭和36年）	74歳	10月6日オイスカインターナショナル設立、総裁に就任。同時に日本総局及び各国に総局が設立され、直ちにインド、パキスタン等アジアに調査団を派遣し、研修生の受け入れが始まった。 後に同組織は国連経済社会理事会のカテゴリーゼネラルに認定される。
1963年（昭和38年）	76歳	宮本正太郎京大花山天文台長推薦による「移動天文教室」を小中高校に太陽系、星座、気象の3分野の展示会場を設け実施。10年間9ヶ所の天文台で約2,000校実施。
1966年（昭和41年）	79歳	オイスカは国際協力活動として日本人技術者を東南アジアに派遣する。又国内に4ヶ所の農業研修センターを設置し、各国の研修生を育成。
1967年（昭和42年）	80歳	天文地学専門学校開校。19年間に469名卒業
1974年（昭和49年）	87歳	逝去
1983年（昭和58年）		学校法人中野学園オイスカ高等学校開校。現在に至る。



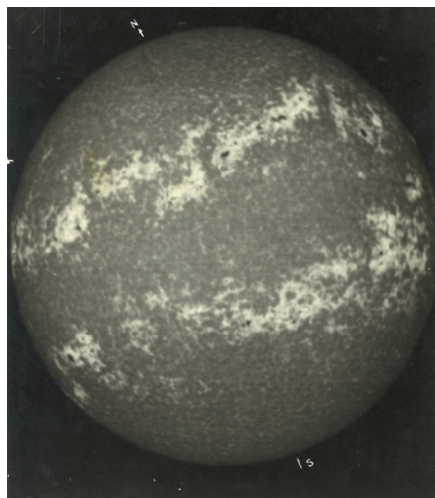
移動天文教室 1966年12月1日
（狩野中学校、現在の伊豆市立天城中学校）



宇宙天文博覧会 宇宙ロケット館
1959年4月10日～5月31日
（月光天文台）



1957年4月30日部分日食（沼津市香貫山）



山本台長インドのゴダイカナルで太陽分光観測

あなない天文台から公益法人への移行

三五教は、1957年1月より社会活動の一環として天文普及に取り組み、各地に天文台を建設しました。その運営、研究は専門家の指導により、国際天文協会を通じて行われ、宇宙天文についての啓発活動を展開しました。その後、同活動が公益性に基づくものであることから、1961年文部科学省認可の財団法人国際文化交友会が発足すると共に、同法人がその役割を担うこととなり、さらに同法人が2011年公益財団法人国際文化交友会として認可され今日に至っております。



現在の月光天文台



神和光機50cm反射望遠鏡
鏡面研磨：池谷薫氏

2. 山本一清博士の掲載記事紹介

中野與之助翁の山本天文台訪問 1956年10月19日

昨年(*1)、山本天文台で三五教中野與之助開祖(*2)初め幹部の方々のご訪問を受けました。

私は天体観測の望遠鏡や、書物をお目にかけ、ひと通り、天文に関するありきたりのお話を致しました。普通のお客はこれで先ず御帰りということになるので、私が語り手、相手は聞き手にきまっているのですが、この時は全く反対です。

私の話が終ると、今度は開祖様が話し手に廻られ、私に口をはさむ隙も与えずに三時間もお話しになったのです。お話しが、実にはっきりしている上に、信念に満ち切っていて、こちらから言葉をはさむすきが見出せないのが、終始謹んで拝聴しました。私は天文の研究を始めて五十年、初めて聞く力強いお言葉でした。

開祖様は盛んに「私は無学だ無学だ」とおっしゃるが、天文学の中心をしっかりと把握したお話なので、全く驚きました。

私は従来、現代の学問のあり方に対して一種の不満足を感じていました。専攻の天文学に関しても同様であって、その不満は生涯続くかも知れぬ種類のものでした。そして、日本、否、世界中を探しても、この不満を知ってくれるような人がいないのです。

ただ一人、英国のケンブリッジ大学の教授アーナー・スタンリ・エデントン博士ならと思うのですが、大戦中に比較的若くして死去されたのです。

天文学の歴史は長く、天体を研究する学問は太古にあっては、宗教だったのです。例えばバビロン、アッシリヤなどでは、星の一つ一つが皆神であったわけです。

エジプトの天文学は太陽中心の宗教である一面において、技術的にも利用され、暦の根本となりました。かくしてできた暦が太陽暦なのです。

印度、支那の天文学も宗教ではあるが、政治と深く結びついていました。

こゝに持参した写真は後陽成天皇御自筆の北斗七星の図を写したもので、こうした天文の精神は昔からあるのであって、東洋の王者に「天体の運行は人類の理想を教ゆるものであり、また、これを具象化した姿なり」として、責任の上からも天文を見たのです。天文によって心身を清め、理想の政治を行うのが東洋における王者の望ましい姿であったのであります。

開祖様が私の宅で、私に一言もいわせず、三時間もお話し下さったことによって、私は眼をさました。これはただごとではありません。

昨年末(*3)、開祖様は西浦の神聖館で、「宗教は紙の表であり、天文学はその裏である」と端的におっしゃいましたがこれは実にいいお言葉だったのです。私は嬉しさのあまり、いきなり握手したかったのですが、そこでは遠慮しました。それから京都で三五教について大いに語りました。今のところ、三五教の書物を読んでも、わかるところもあるが、わからぬ点もある。大いに勉強致します。そのうちに若い人達も理解して、どしどし来ることになると思います。こうした清い空気の中で、私は半生涯をかけて研究して来た天文学の忘れられていた半面を研究したいという希望に燃えています。

宗教と学問とは、宇宙を各々異った面から異った方法で見ているわけですが、幾万年か後には、必らずや、一つに落ち合うであろうことが予想されます。私は今、何とかして技術の学に墮している天文学を、も一度、思想の学に立直したいとの希望でいっぱいです。

昨冬から根上会長が、私にぜひ、こちらへ来て、研究するようにと膝詰談判をしてこ

られましたが、あれこれ考え合せて迷いました。 だが、それが自分の今後に与えられた任であることを悟り、年末に至って断乎として決心致しました。そして、今日こゝに二人（*4）の優秀な青年学者を同して出て参ったのであります。

現在の天文学を技術の学から思想の学に向上発展せしむることが今後における私の使命であることを覚え、年頭に当り大いに勇躍している次第であります。

*1 1956年10月19 日

*2 (1887-1974)

*3 12月24日

*4 京都大学宇宙物理天文学教室 古川麒一郎氏、
東亜天文学会計算課長 長谷川一郎氏

※参照：山本一清「天文と思想」、「天界」第1巻 第382号、1957年
1957年「あなない」誌 第八巻第二号

中央天文台地鎮祭での山本台長の挨拶 1957年3月18日

「私が天文関係の仕事をはじめてこの三五中央天文台が、丁度十番目に当ります。こういうことからしても、何かしら意義深い感がするのですが、私はこの天文台は、三五教の中央天文台ではなく、日本の中央天文台としたい考えを持っております。また、仕事としては、暦の問題も考えています。これは、すでに清水の暦算局に於て研究を開始していますが、なかなか、大変な仕事であり、今後皆さんにも、何かと御相談に上ることがあるかと思いますが、何とぞ宜しく御願います」

昭和32年4月15日 THE ANANAI NEWS 第七十七号

中央天文台上棟祭での山本台長の挨拶 1957年5月21日

「昨日東京に行き、今日はその帰りに直行して来た次第ですが、汽車の窓から見上げると、なるほど立派な天文台が山の上に聳えています。それで今朝も胸を躍らせて駆上って参りました。皆様の御努力で着々として工事は進んでいます。私もこれに対して重大な責任を感じています。

暦算局の方もすでに仕事を始め、一ヶ月程前に約三〇〇枚の文書を世界各国に発送しました。ところが早速そのお礼をかねた暦算局開設のお祝いの手紙がベルギー、フランスなどから続々と来ております。また天文台は今こうしてできつゝあるのですが、観測はすでに一ヶ月前の彗星の観測より、この香貫山頂で行っております。いまからも人工衛星、太陽の黒点観測などやるべき仕事は待っています。これをしっかりとつかまえて世界天文観測陣のためにも大きく寄与したいと思っています。この上棟祭にあたり、私の包み切れぬ喜びと、抱負の一端を申し上げた次第です」

昭和32年6月15日 THE ANANAI NEWS 第七十九号

野尻抱影先生講演 1957年10月31日

「この天文台は城型になっているが、城の中軸になる天主閣には、中央に帝釈天、四方に四天王を鎮めるのが例になっていたようである。ところが上杉謙信は、これを嫌い、天主閣は天の主が天を守る城であるとの新解釈を下した。

この天文台の観測室は天主閣であると同時に天文閣と称することができよう。私は三五教に関しては全然無智であるが、このほど御恵贈戴いた天文台完成祭記念絵葉書の覆いに印刷されていた文章を見て、五風十雨の循環、天体の運行など、あらゆる自然現象を支配する神を中心とした教であることを知って、非常に喜ばしく感じたのである。

これは当然といってしまうえば、それまでであるが、こうした教を出すには大きい抱擁力と、度量を要するのであって、この点について心からの敬意を表している次第である。

私が天文関係の文を草し始めたのは五十年以来のことであるが、その間、終始変らぬ御指導を賜っている山本博士の御紹介で、宗教と天文とは一如なりと喝破されている中野先生を開祖と仰ぐ三五教の施設の中で、開祖様始め、天文に関心の深い諸君と親しく話し合う機会を得たことは実に愉快である」

昭和32年11月15日 THE ANANAI NEWS 第八十四号



3. あなない天文台と山本一清博士年譜略記 （敬称略）

1956年

- 10月19日 山本天文台に三五教開祖他5名訪問し懇談
- 11月 9日 山本一清博士夫妻、三五教に来訪、夜、博士の講演会
- 12月8-9日 花山天文台で、山本博士と開祖他 天文等の懇談
- 12月18日 山本一清博士夫妻、三五教に在勤となる
- 12月23日 開祖、来年には天文台建設をする講話

1957年

- 1月 2日 開祖「宗教と天文は一体であると」発表
- 1月 5日 世界宗教研究所と天文暦算局の発会式
記念講演：山本一清博士と東京大学中村元博士
- 1月11日 天文台建設会議
開祖他、山本夫妻、宮本正太郎、中村元
- 1月16日 開祖、人工衛星の打ち上げと天文台建設の講話
- 1月18日 開祖、天文台名を「中央天文台」として台長に山本一清博士を任命
- 1月21日 東亜天文学会計算課長、長谷川一郎氏、在勤
- 1月25日 暦算局にドイツのスタインハイル11cm屈折望遠鏡設置
- 2月25日 天文研究員の養成のために「天文講座」始まる
講師、山本台長、古川麒一郎、長谷川一郎、坂井義雄
- 3月18日 中央天文台建築のために沼津市香貫山山頂で地鎮祭
三五教関係者、高木沼津市長、市会議員、沼津警察署長ほか
- 4月10日 アレンド・ロラン彗星の観測始まる、坂井義雄先生他
- 5月21日 中央天文台、上棟祭
- 8月17日 山本天文台の46cmカルヴァー望遠鏡の輸送
- 9月10日 カルヴァー望遠鏡の据え付け完了
- 9月21日 中央天文台完成祭 祭主 山本一清台長
- 9月22-23日 沼津天文祭り（浅間神社から日枝神社の往復）
- 10月 4日 ソ連、人工衛星「スプートニク」1号打ち上げ
- 10月14日 中央天文台で人工衛星を観測
- 10月30日 野尻抱影先生、山本台長と歓談し、講演する
- 11月 3日 ソ連、人工衛星「スプートニク」2号（犬が搭乗）打ち上げ
中央天文台と西部天文台で観測

11月23日 西部天文台（筑後市）完成
 12月より 全国各市より天文台の視察と誘致広まる
 12月23日 山本台長、インドのコダイカナルで太陽分光写真観測(写真参照)
 1958年
 1月 8日 中央天文台を月光天文台に改名する
 1月 8日 西部天文台を九州天文台に改名する
 3月19日 眉山天文台完成 徳島県徳島市
 それ以前に四国三縄天文台完成 香川県池田町三縄
 4月25日 奥州天文台完成 福島県二本松市
 5月27日 第1回全国天文視察会議
 9月 3日 第2回全国天文視察会議
 9月14日 国治天文台完成 愛知県岡崎市
 11月12日 濃尾天文台完成 岐阜県多治見市
 11月 1日 月光天文台より、山本台長と長谷川一郎出たする
 （長谷川一郎の証言及び中島英男の記録による）
 1959年
 天文研究員養成のために、渡辺敏夫先生の天文講座始まる
 1月16日 山本一清台長 逝去
 2月21日 東北天文台完成 岩手県北上市
 11月頃カルヴァー46cm反射望遠鏡の搬出
 1960年
 9月30日 肥之国天文台完成 熊本県山鹿市
 1963年
 10月 1日 信濃天文台完成 長野県岡谷市
 1975年
 3月22日 現在の月光天文台 静岡県函南町

4. あなない天文台建設と施設紹介

当初、天文台の設置について、静岡県を中央天文台、福岡県を西部天文台、福島県を東部天文台と称し3ヶ所を中心に考えていたようです。

しかし、中央天文台完成と共に、ソ連の人工衛星の打ち上げにより、宇宙時代の幕開けとなり、各地から天文台の誘致が盛んになるにつれて、1958年1月8日に既に完成していた中央天文台を月光天文台に、西部天文台を九州天文台に改称した。山本一清台長、長谷川一郎先生、坂井義雄先生等も東奔西走して天文台の意義を普及し、台員の養成に尽力されたのである。

各天文台と望遠鏡写真

各天文台の表を参照

各天文台と望遠鏡



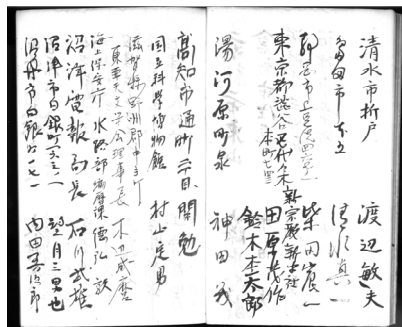
沼津市香貫山の月光天文台 1957年9月21日完成



26頭の乗馬（山本博士の乗馬 後方に天文台）
沼津天文祭りの一部（沼津市商店連盟主催）1957年9月22-23日
浅間神社から日枝神社の往復
神輿渡御、神輿三基、26頭の乗馬、手古舞、男獅子、女獅子
100人の二連他 1km以上の大行列



神輿三基

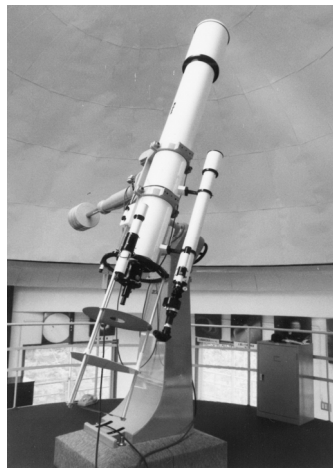


月光天文台完成祭1957年9月21日芳名録

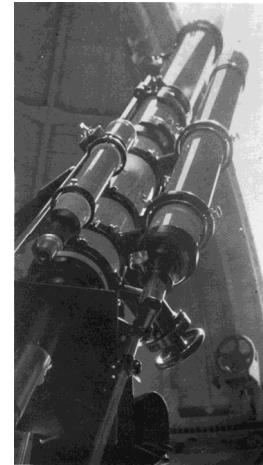
完成祭参加者記帳より：百濟教猷、本田実、渡辺敏夫、神田茂、村山定男、清水真一、柴田宸一、関勉、木辺成麿、徳弘敦、熊谷明、（10月下旬）保積善太郎、原田三夫、岸田虎二、野尻抱影、金子功、他



九州天文台
1957年11月25日完成



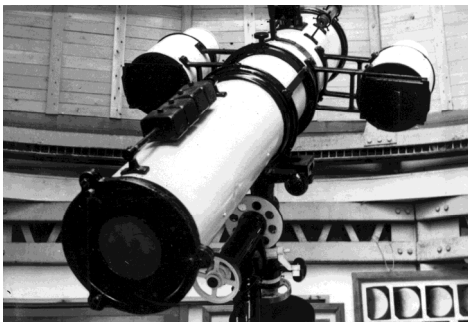
ニコン20cm屈折



ユニトロ16cm屈折



三縄天文台1958年1月完成



20cm反射 (西村製)



眉山天文台1958年3月19日完成



国治天文台1958年9月14日完成



三鷹30cm反射



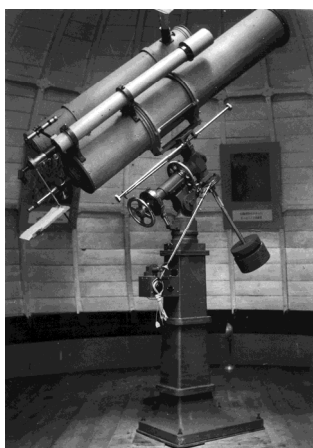
ユニトロン16cm屈折



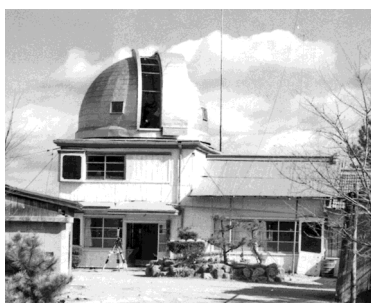
奥州天文台1958年4月25日完成



ユニトロン16cm屈折
京大宇宙物理教室所蔵山本資料より



協和光機20cmクイック式屈折



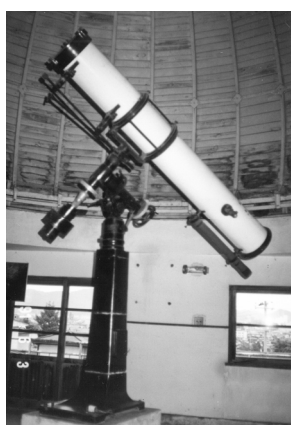
濃尾天文台
1958年11月12日完成



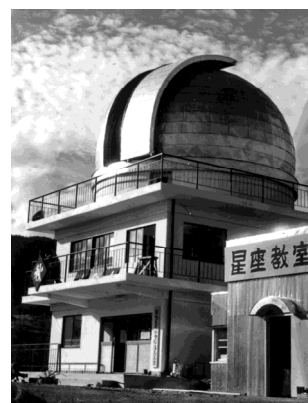
肥之国天文台
1960年9月30日完成



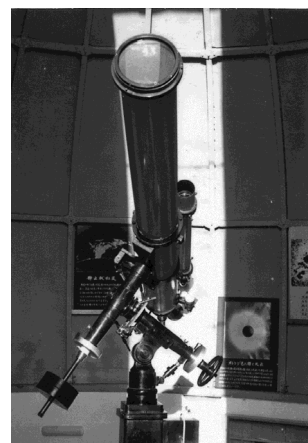
東北天文台
1959年2月21日完成



協和光機21cm反射



信濃天文台1963年10月1日完成



協和光機22cm屈折

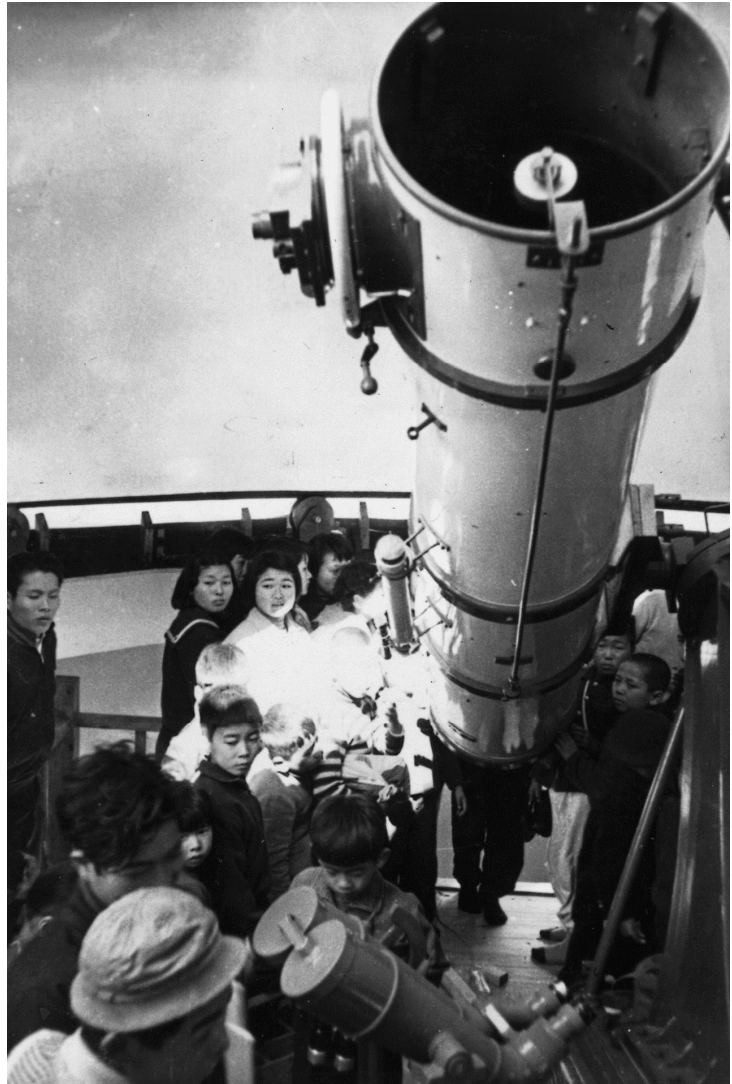
天文施設と望遠鏡

名称	場所	設立	撤去	建物	望遠鏡	その他
天文暦算局	静岡県清水市	1957. 1. 5		木造モルタル二階	シュタンハイル11cm屈折→(国治へ移設)	
中央天文台(1958年1月改称)月光天文台	静岡県沼津市	1957. 9. 21	1973. 6. 30	回転天守閣木造三階	カルヴァー46cm反射赤道儀(1959年10月迄) ユニトロン16cm屈折赤道儀	カルヴァー46cm反射赤道儀は京都大学総合博物館理学研究科附属天文台
月光天文台	静岡県函南町	1975. 3. 22	現存	鉄筋コンクリート四階	神和光器50cm反射赤道儀 ユニコン20cm屈折赤道儀	本館・第一観測所、第二観測所、地学資料館、プラネタリウム館
西部天文台(1958年1月改称)	福岡県筑後市	1957. 11. 25				
九州天文台	福岡県筑後市	1957. 11. 25	1992. 3	回転天守閣鉄筋コンクリート三階	協和光機製20cm反射→ユニトロン16cm屈折赤道儀→ユニコン20cm屈折赤道儀	
四国三縄天文台	徳島県池田町三縄	1958. 1	1959	木造二階	20cm反射赤道儀→(眉山へ移設)	
眉山天文台	徳島市眉山山頂	1958. 3. 19	1968	鉄筋コンクリートドーム	20cm反射赤道儀 ユニトロン16cm屈折赤道儀	
奥州天文台	福島県二本松市	1958. 4. 25	1991	回転天守閣木造三階	ユニトロン16cm屈折赤道儀	霞ヶ城跡
国治天文台	愛知県岡崎市	1958. 9. 14	2009. 12	回転天守閣木造三階	シュタンハイル11cm屈折→ユニトロン16cm屈折赤道儀	併設：三鷹30cm反射赤道儀
濃尾天文台	岐阜県多治見市	1958. 11. 12		木造三階ドーム	協和光機20cmクイック式屈折赤道儀	
東北天文台	岩手県北上市	1959. 2. 21.		鉄筋コンクリート三階ドーム	協和光機21cm反射赤道儀 ユニトロン16cm屈折赤道儀	
肥之国天文台	熊本県山鹿市	1960. 9. 30	1983. 6	回転・天守閣木造三階	ユニトロン16cm屈折赤道儀	
信濃天文台	長野県岡谷市	1963. 10. 1	現存	鉄筋コンクリート三階ドーム	協和光機製22cm屈折赤道儀	現在一般公開はしていない
【変遷】	1957年～1959年 三五教	1957年4月～1965年3月 国際天文協会			1961年1月～2011年3月 (財)国際文化交友会	2011年4月 公益財団法人 国際文化交友会
天文地学専門学校天文台	静岡県浜北市	1968. 7. 10		木造二階ドーム	アストロ光学25cm反射赤道儀	生使用 1967. 4 開校
遠州天文台	静岡県浜松市浜北区	1984. 4	現存	同上	同上	公開はしていない
オイスカ高校	静岡県浜松市西区	2009. 8	現存	鉄筋コンクリート三階ドーム	三鷹30cm反射赤道儀	生使用 1983. 4 開校

5. 結び

中野與之助翁が進める天文事業に山本一清博士は、カルヴァー46cm望遠鏡までも貸与して、積み重ねた英知と経験をこの天文台に注ぎ込んだのである。月光天文台を辞して僅か2ヶ月余りで病死されるとは誰も思わなかったのです。

2年間の山本一清博士がご指導下さった「教育天文」即ち天文と私たちの生活は現在も継続しているのであります。



胸をはずませて、宇宙の神秘を観察
山本博士の愛機カルヴァー46cm反射赤道義
1957年（月光天文台）